

□議員名：伊場 勇

1 カラーユニバーサルデザイン推進について

論点	カラーユニバーサルデザイン（色覚異常に配慮した色使い）推進について市の取組はどうか。
回答	公文書については区別のつきやすい白地か黄緑色地などに目立つ黒文字を組み合わせたリ、多くの色を使用しないなど配慮を行っている。 市職員に対しては再度、山陽小野田市情報バリアフリーマニュアルを使い周知をし、配慮をしていく。

論点	色覚に異常を持つ方の色彩を体験できる色弱模擬フィルターや色覚シミュレーションソフトの導入をすべきではないか。
回答	調査、研究をし、進めていく。

論点	小中学校での色覚検査の状況と色覚異常に対しての配慮はどうか。
回答	平成 28 年度以降は小学生 2 年生、中学校 1 年生の希望者に対してのみ検査をしており、色覚異常の児童生徒の保護者ともプライバシーに気を付けながら進路相談を行っている。

論点	色覚チョークの導入状況と今後の取組はどうか。
回答	現在市内小中学校 19 校中 6 校が導入しており、メリットについてはしっかり伝えていきたいが、市内統一して導入する考えはない。

論点	スマートフォン用自治体アプリ導入への考えはどうか。
回答	必要な人に必要な情報を届けるという点で有用と考える。経費や OS 変更への対応に加え、アプリの登録者数の伸び悩みが課題となっており、認知度をどのように向上させていき、登録したいというアプリの魅力をどのように高められるかが、導入に際しては重要になると認識している。

論点	双方向型アプリの導入について市の考えはどうか。
回答	市民からの情報の収集は、電話やメールでの収集しかできておらず、新たな手法としての双方向型アプリは、市民の自主性の部分が多く、これは現在進めている、「協創」によるまちづくりというところにも結びつくものであり、今後鋭意研究していく。

論点	地域おこし協力隊について進捗状況はどうか。
回答	平成 31 年 9 月の募集開始に向けて進めている。定住促進、また外部からの移住の一つの手段として中山間地を抱えている本市においては、非常に有効であり、今後のスキームづくり、ステージづくりが、来年度の課題である。そうした中で担当の総合事務所だけではなく、幅広く企画課、農林水産課、経済部を含め、今後のスキームを考えていく必要があるかと考える。